

# 「音楽は心の薬」

## - 高齢者に音楽環境を整える・ラジオを活用して

春・秋連結学期

今出川校地開講科目

### 1. 目的・概要

the purpose and an outline

本プロジェクトの目的は、高齢者福祉施設にて音楽環境を提供することで、施設の利用者である高齢者の皆様と一緒に音楽を楽しむ「若返ってもらうこと」です。同じ施設で複数回音楽イベントを行うことで、高齢者の皆様の「認知症の進行を遅らせること」を最大の目標にしています。また、ラジオを活用して、私たちの音楽イベントの活動内容を社会に発信し、超高齢社会での福祉施設・音楽環境の現状を伝えています。さらに、プロジェクト終了後も高齢者の皆様に「音楽に触れる機会を提供できる環境」を整えることが、本プロジェクトの最終目標と考えています。



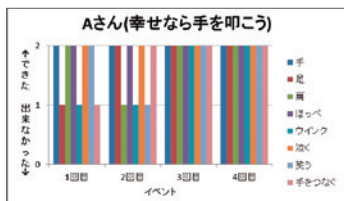
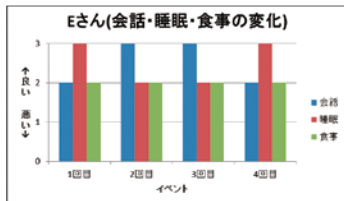
### annual schedule

2014年 5月 18日	KBSラジオ『武部宏の日曜と一く』出演 #1
6月 15日	KBSラジオ番組出演 #2
26日	特別養護老人ホームAにて、音楽イベント #1
7月 10日	KBSラジオ番組ディレクターによる講演
20日	KBSラジオ番組出演 #3
夏季休暇中	各自高齢者福祉施設を調査 計13施設
9月 21日	KBSラジオ番組出演(宇治の施設より中継) #4
10月 15日	グラミー賞受賞者グレン氏、音楽療法士ロワール氏による講演
23日	特別養護老人ホームAにて、音楽イベント #2
11月 6日	特別養護老人ホームAにて、音楽イベント #3
13日	特別養護老人ホームBにて、音楽イベント #1
16日	KBSラジオ番組出演 #5
20日	特別養護老人ホームAにて、音楽イベント #4
12月 4日	特別養護老人ホームBにて、音楽イベント #2
11日	特別養護老人ホームAにて、音楽イベント #5
18日	特別養護老人ホームBにて、音楽イベント #3

## 2. 成果達成度

the achievement degree

私たちは「じっちゃんばっちゃん若返る 音楽の力でLet it go♪」というテーマを掲げ、活動してきました。まず学生が高齢者福祉施設の現状を把握し、どのようにアプローチすれば高齢者の皆様が「若返る」のかを考えました。春学期に行った利用者様との触れ合いと一回の音楽イベント、夏季休暇中に訪問した施設での音楽イベント見学を通して、「同一施設で複数回イベントを実施すること」と「身体と一緒に動かしながら歌うこと」が「若返る」ことに繋がると判断しました。イベントでは、学生手作りのシェーカーや楽器、装飾や歌詞カードを持参し、童謡や歌謡曲、盆踊りなどを演奏し歌いました。



音楽イベントを実施する上で、音楽の質は勿論のこと、「若返る」ことの定義付けを行い、音楽イベントがどのように利用者様に影響を与えているのかを調査しました。「若返る音楽の力」をデータ化するような調査票を作成し、施設の担当者に回答していただきました。統計的手法を用いて集計したデータの解析をしましたが、有意な結果は数値としては得られませんでした。これは解析をするにあたってのデータの試行回数の少なさが起因していると考えられます。結果的に歴然とした調査結果を算出することはできませんでしたが、利用者様の笑顔や会話、昔話をする回数が増えるなど、さまざまな気付きがありました。音楽イベントで多少「若返る」ことが出来ると、私たちは高齢者の皆様と音楽を通して触れ合うことで感じました。

私たちの最終目標である「音楽イベントを活性化させる」に関しては、ラジオ出演で私たちの活動を発信し、施設へのリーフレット配布で学生音楽団体等と施設を繋ぐきっかけを作りました。私たちの活動だけで終わらせない、社会に広く知ってもらい「音楽環境を整える」ことができたと思います。

doshisha

kyotaniabe

imadegawa

### 3. プロジェクトを通じて

through a project

私たちは主体性、実践力を得ることが出来ました。プロジェクトでは、各々の行動やアイデアが重要で大きな影響力を持っています。授業開始当初は、何をすべきか分からず、昨年度までのプロジェクトを模倣していた面もありました。しかし、音楽イベントや高齢者の皆様との交流を通して、今まで経験したことのない気付きや反省点生まれ、メンバー全員から新たなアイデアが生まれるようになりました。ただ、話し合いで決まったアイデアを実践するにあたり、様々な困難に直面しました。音楽イベントを希望している高齢者福祉施設とボランティア団体を繋げる窓口となる冊子を作る企画がありましたが、なかなか施設の方から掲載許可がおりませんでした。また、ただ原稿を書いて印刷するのは冊子を配布できません。関係各所に文言を確認してもらったり、印刷所との交渉があったりと、複数の重要な過程を踏む必要があると知りました。更に、音楽イベントの効果の調査において、「若返ってどういうことだろう?」「笑ったか笑ってないかの判断基準はどうしよう?」など、アイデアと実現可能性とのギャップを身をもって感じました。問題点と向き合い工夫することで、多くのアイデアを形にできたときの達成感は忘れられません。



#### 【編集後記】

高齢者福祉施設には、手足や耳が不自由な方や、自力で音楽イベントに赴くことが困難な方が多くいらっしゃり、音楽イベントを行う団体の訪問がなければ参加する機会がありません。私たちは音楽イベントの最後に、涙を浮かべ「ありがとう。また来てね。」と仰ってください方を何度も見ました。そう言っていたとき、私たちの活動の意義とともに充実感を噛みしめることができました。今後、さらに高齢者福祉施設での音楽環境が整っていくことを期待します。

#### 【プロジェクトメンバー】

池松 駿(文2) 加藤 向陽(文2) 堀 祐貴(文2) 松本 都(社2) 村井 美文(社2) 朝永 晶子(社3) 榎本 彩花(経2) 関 萌(経2)  
中井 芳野(経3) 上野 弘敬(商4) 黒木 彩加(政策2) 永野 詩織(文化情報3) 北尾 史織(GC4) 高橋 美咲(SA)